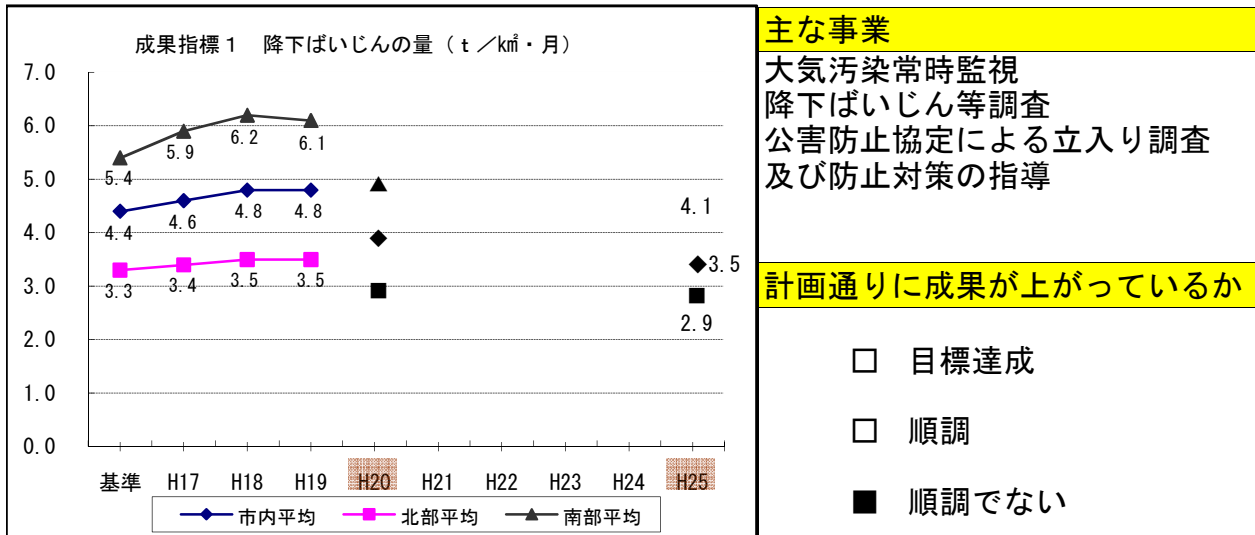
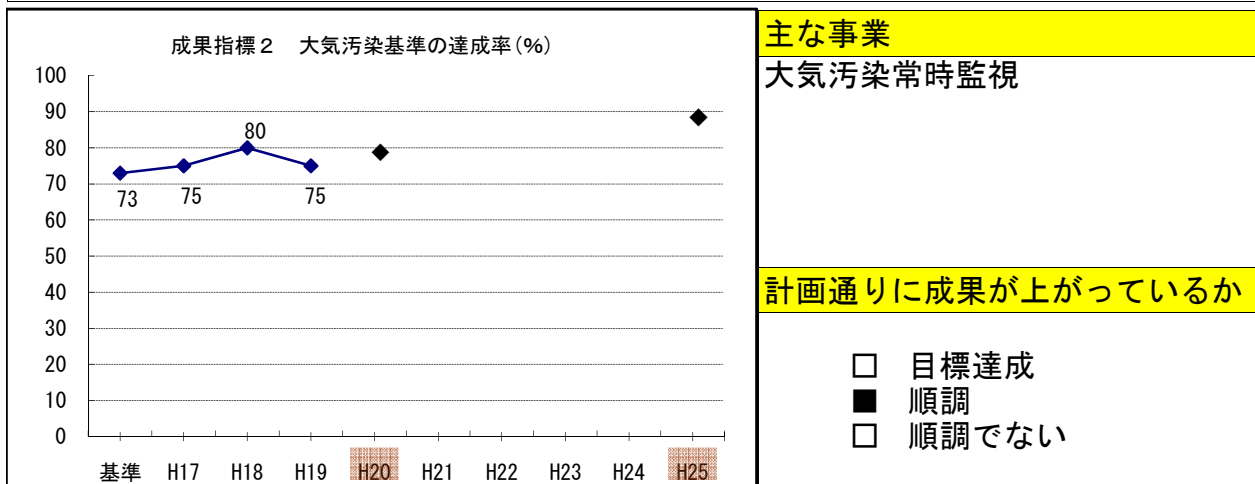


(2) 成果指標評価表

柱	1 社会環境
分野	A 大気・ばいじん
ビジョン	きれいな空気の中で暮らせるまち



成果指標の分析
臨海部企業は15年12月から順次環境ネットの設置、コークス炉の集じん機6基設置及び石炭ヤードの擁壁の設置、散水強化及び電気炉製鋼工場の集じん能力強化などを実施中であるが、活発な経済活動、気象条件等により、降下ばいじん量は横ばい傾向である。



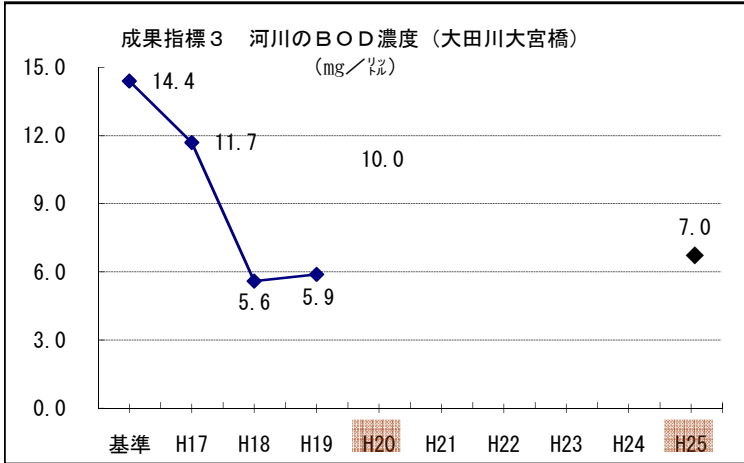
成果指標の分析
事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、二酸化硫黄・二酸化窒素は環境基準を達していたが、19年度は浮遊粒子状物質の1局と、光化学オキシダントは4局全てで未達成であり、関係各機関との連携をとりながらの対応が必要である。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き事業所への環境ネットの設置や建屋集じん等の指導をしていく。
エコドライブ、アイドリングストップ等自動車排ガス対策等についても継続して啓発していく。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち

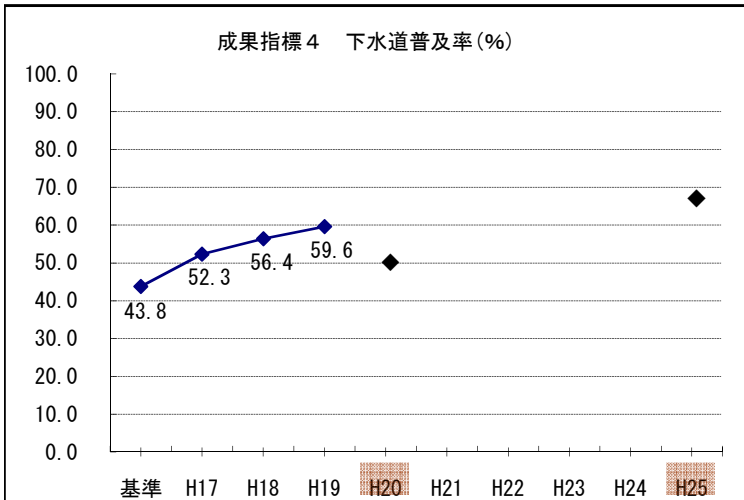


主な事業
河川の水質調査(8箇所、年4回)
河川・ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
河川の水質調査は、年4回の平均値のため季節や天候に左右されるが、19年度は全般的に数値は横ばいになっている。
その理由は、下水道の整備等による。



主な事業
下水道整備事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

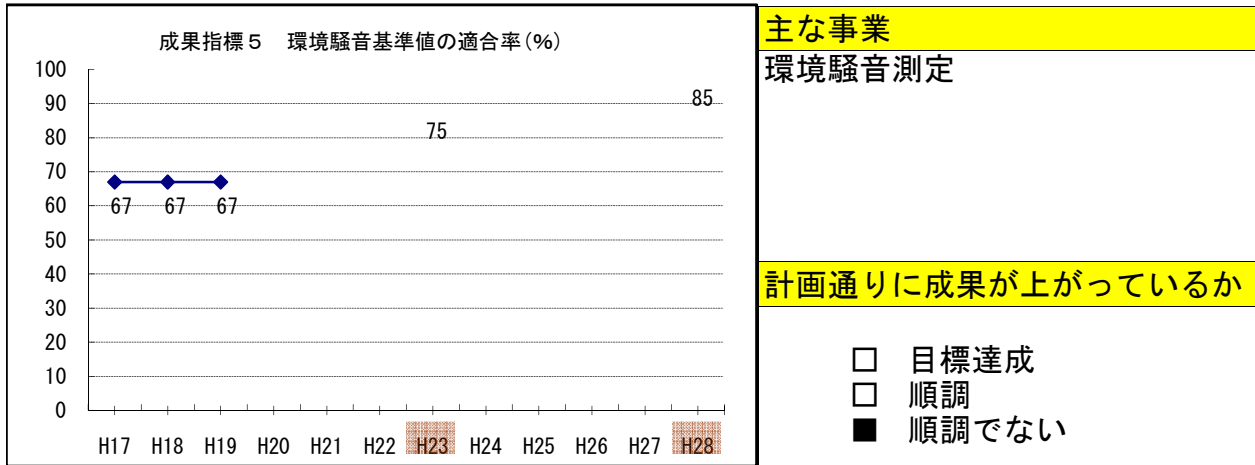
成果指標の分析
下水道の整備は、順調に進んでいる。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

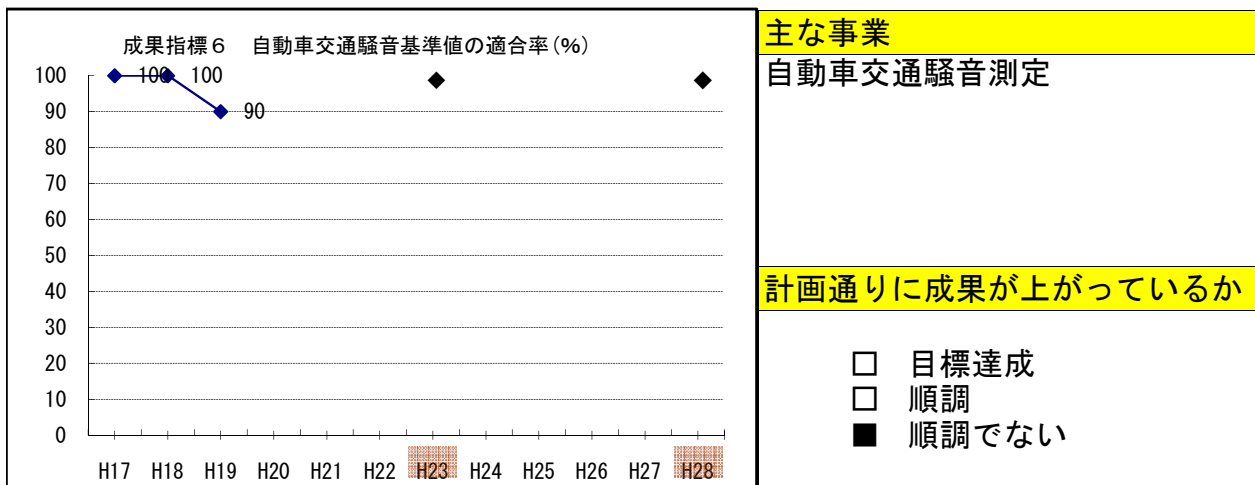
下水道の整備を継続していくとともに、生活排水対策として、環境浄化微生物を使った河川ため池水質浄化事業をモデル地区を選定して進める。

柱	1 社会環境
分野	C 騒音・振動
ビジョン	静かでおだやかに暮らせるまち



成果指標の分析

市内6地点で調査を実施している。19年度は、昼間はすべての測定点で環境基準を達成したが、夜間は4地点で達成できなかった。



成果指標の分析

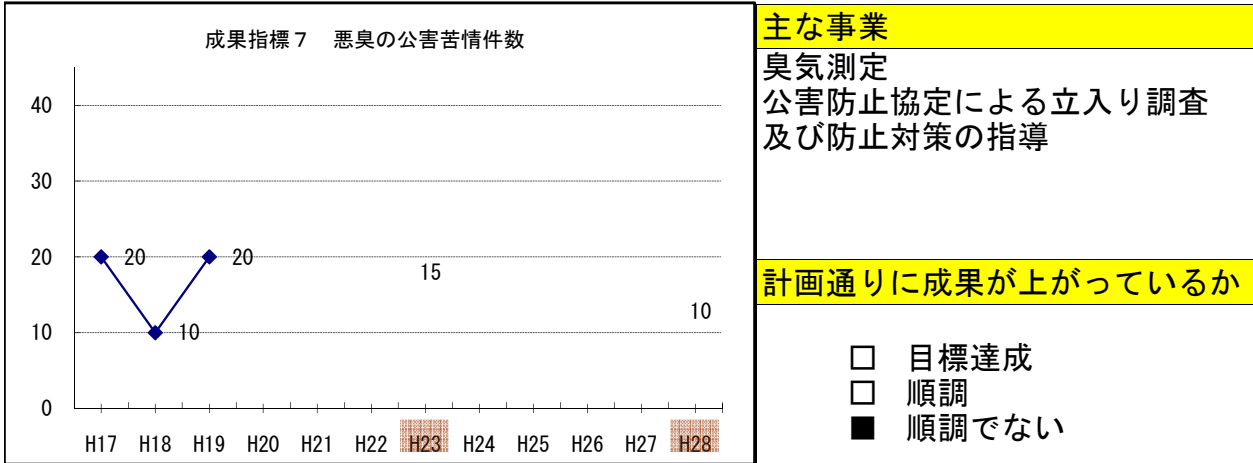
自動車交通騒音は、市内5地点で調査を実施している。平成19年度は、昼間はすべての測定点で要請限度の超過はなかったが、夜間で1地点要請限度を超過した。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

環境騒音、自動車騒音とも夜間の超過が多いことから、原因は夜間の交通量の増に伴う暗騒音の増と考えられる。直接的な対策は難しいが、環境にやさしいライフスタイルに見直すよう啓発活動を推進する。

柱	1 社会環境
分野	D 悪臭等
ビジョン	健康で安心して暮らせるまち



成果指標の分析

悪臭の苦情件数は20件で、前年度に比べて10件の増となっている。増加している発生原因の主なものは、「農業」と「不明」で、一時的、一過性の苦情が多くなっている。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

固定発生源からの苦情は増加していないため、一時的な苦情に対する啓発活動を推進する。